

「テンポ・ドロップを作る (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

丸ノ内線の大手町駅と、東西線の手町駅は離れていて、一旦改札の外に出て乗り換えることになる。30分以内なら、1枚の切符や通しのパスモ料で、地下鉄の乗り継げるのだ。ここはかつて、狭くて暗い、閉塞感満点の地下通路だった。しかし、「OOTEMORI (大手森)」というビルができて、その地下1階が通路になってからは、面目を一新した。

通路には、花屋さん、ケーキ屋さん、バー、洋服の店などが並び、単なる通路から、開放的で楽しいショッピングモールに変身してしまった。



その通路に、ドイツの雑貨を中心に扱う面白いお店がある。夜9時まで開いているので、通勤の帰りに、時々寄って楽しんでいる。狭いお店だが、文房具や書籍(科学書や雑学書が多い)それに、さまざまな置物や雑貨を扱っている。店の入口のショーウィンドウには、鉱物の標本や、科学者(たとえば中谷宇吉郎)の書いた本が置いてある。通勤中に見る、何か不思議な空間である。



その中に、ひときわ目を引く、不思議なオブジェが飾ってある。水滴の形をしたガラス容器に液体が入っていて、中に白い結晶が沈んでいる。



これは何だろう? 私は気になって、通るたびに近くで眺めていた。名称は「テンポドロップ」。説明には「気温の変化と、その変化速度によって変化する、中の結晶の様子を楽しむオブジェです。」と書いてある。確かに、見るたびに、結晶の量も形も変化している。買おうかな? 価格は5,500円、高い! (つづく)